

人生100年時代です!

自分のスキルや強みを見つめ直してみませんか?



48歳2児の父親、埼玉に住んでいる落語家の三遊亭鬼丸です。私は「シニアライフ案内士」のナビゲーターを務めていて、定年はまだちょっと先という40代、50代の皆さんと一緒に「シニアライフ」について考えていきたいと思います。そんな私からのメルマガ第2号です。

さて、人生100年時代といわれています。「勉強に20年。仕事に40年。さあ60歳からは自分の思うように生きるぞ、と思ったら、人生の折り返しを過ぎたばかりだった」。こんな笑い話のような、ため息のような声を、ある働くシニアから聞きました。人生100年、余生というにはあまりに長い時間が定年後に控えているというわけです。

今年4月、改正高年齢者雇用安定法が施行されました。シニアが70歳まで働けるよう企業に努力義務を課すものです。希望すれば働ける間は働ける。これからの時代の常識かもしれません。

すでに働くシニアは驚くほど増えています。令和3年版高齢社会白書をのぞいてみると、2020年の年齢階級別就業率は、60～64歳で7割超、65～69歳で約5割に達しています。10年前と比較すると、それぞれ13.9ポイント、13.2ポイントも伸びています。

定年後も働けるのは素晴らしいとは思いますが、働き手側の意識はどうでしょうか。皆さんは自分の価値について考えたことがありますか。特に仕事や組織の中の立場や役割についてです。40代からのセカンドキャリア研修に力を入れている、という企業の方に話を聞いたことがあります。まずは、自分のスキルや強みを冷静に見つめ直すことが大事かもしれません。

私の師匠は、三遊亭圓歌(えんか)です。「山のあな、あな…」で大人気になりました。その弟子というのは、世間からみればりっぱなブランド。しかし、それだけで売れるわけがありません。私自身に力がないといけなし、意欲や魅力が必要です。

「鬼」がつく名前は、落語界に私だけです。とにかく印象的で、覚えてもらえる名前を、と考えました。自分の最善を選ぶときには慣例や常識を壊す必要もあります。

噺家は「口に新しい」と書きます。世の中は新しいモノやコトにあふれています。だからこそ、感性をスポンジみたいに柔らかくして、どんどん吸収しようと心がけています。

会社や組織のブランドが定年後の暮らしを豊かにしてくれるでしょうか。問われるのは自分の価値。その覚悟が必要だと思います。

【さんゆうてい・おにまる】 落語家。1972年生まれ。長野県上田市出身、さいたま市在住。故三代目三遊亭圓歌に弟子入りし、97年に初高座。2009年、NHK新人演芸大賞入選。10年、真打に昇進して「鬼丸」を襲名。現在、エフエムNACK5の人気番組「GOGOMONZ」(月～金、13:00～17:00)に出演中。「令和元年度彩の国落語大賞」を受賞。